氏　名（本籍）	**伊　藤　恵以子**　（愛知県）
学位の種類	学　術　博　士
学位記番号	博音第６号
学位授与年月日	昭和62年11月２日
学位授与の要件	学位規則第５条第１項該当 音楽研究科音楽専攻　弦・管・打楽器研究領域
学位論文等題目	（演奏）　J.S.バッハ 「チェロ組曲」第１番 「ガンバソナタ」第３番 C. Ph E.バッハ 「チェロ協奏曲」 （論文）　J.S.バッハ＜無伴奏チェロ組曲＞に関する研究 ― 演奏・楽譜等の歴史的状況について ―

論文等審査委員　論文

（主査）	東京芸術大学	教　授（音楽学部）	芸術学士	角倉一朗
（副査）	〃	助教授（　〃　）	芸術学修士	土田英三郎
（〃）	〃	教　授（　〃　）		堀江　泰
（〃）	〃	〃（　〃　）	芸術学士	三木敬之

演奏

（主査）	東京芸術大学	教　授（音楽学部）		堀江　泰
（副査）	〃	〃（　〃　）	芸術学士	三木敬之
（〃）	〃	〃（　〃　）		田中千香士
（〃）	〃	〃（　〃　）		浦川宣也
（〃）	〃	〃（　〃　）	芸術学士	浅妻文樹
（〃）	〃	〃（　〃　）	芸術学士	角倉一朗
（〃）	〃	助教授（　〃　）	芸術学修士	土田英三郎

論 文 内 容 の 要 旨

J. S.バッハの≪無伴奏チェロのための六つの組曲≫は、現在全てのチェリストの主要なレパートリーとなっている。しかし、演奏法や作品分析に関しては幾つかの研究があるが、歴史的な側面からこの作品をとらえた研究は今まで殆んどなされていない。

当論文では、まず、チェロ組曲の成立、演奏、評価の背景となるチェロの歴史について、チェロ組曲との係わりという視点から主要な３つの時期に分けて両者の関係を求めている。そして、チェロ組曲が、楽器の大きさや調弦、奏法がまだ完全には定まらず、高まる音楽的要求と実際のテクニックとの間にギャップが生じた非常に特殊な状況下で成立したことや、今世紀のチェロ組曲の評価の高まりは、カザルスらによる近代奏法の改革と密接に結びついていること等を明らかにしている。

次に、チェロ組曲の演奏の歴史については、カザルスが、チェロ組曲を発見し、今世紀初めに演奏を開始したことによって始まったという印象が強いが、実際には、それ以前に数多くの楽譜が出版されており、決して忘れ去られた存在ではなかった。また、公開の場での演奏も、現在のような無伴奏の全曲を通しての演奏ではないものの、クレンゲルら、何人かのチェリスト達によって行なわれていたこと等を実際の楽譜出版や演奏の記録などをもとに考察している。特に、19世紀には、チェロ組曲は主に、練習曲として扱われ、また、原曲のままの単旋律では不完全であるとして、ピアノ伴奏をつけるなどの編曲が数多く行なわれたが、そうした状況についても明らかにしている。

更に、楽譜に関しては、１８２５年の初版から現在までに出版された約50版の楽譜を比較研究し、ボウイングや校訂方針、その他の点について個々の楽譜にどのような特徴があり、それが時代とともにどのように変化してきたかを調べている。そして、大きな流れの中で見た時、明らかに各時代に特有の共通する傾向がある事を確認し、それによって各時代のチェロ組曲に対する考え方や演奏等を引き出し、新たにチェロ組曲をとらえ直す手がかりや視点を求めている。